

アイヌタイムズ 第65号 日本語版

★ 毒蛾（1） [毒を持つ蛾]

毒蛾という名前を聞いたことがある方は多いと思います。

毒蛾は、鱗翅目（りんしもく）ドクガ科ドクガ属に属する昆虫です。学名は、*Euproctis subflava*です。ドクガ科は日本から50種あまりが知られており、そのうちドクガ属(*Eupr*

*octis*属)は10種類ほどです。ドクガ科の中でも毒針毛を持っているのは、ドクガ属のガの幼虫だけです

北海道には、蚊、ブユ、アブ、スズメバチなどの害虫がいます。これらは皆、人に向か

ってくる昆虫ですが、ドクガは、気づかないうちにさわってしまい、その後しばらくしてから皮膚炎を発症するという厄介な昆虫です。

ドクガは蛾や蝶と同じように、卵、幼虫、蛹（さなぎ）、成虫と成長します。卵から成虫になるまでには1年を要し、幼虫で越冬します。幼虫は、十数回の脱皮を繰り返しながら大きくなります。皮膚炎は、この幼虫が背中に持っている毒針毛が皮膚に刺さることによって起こります。

毒針毛の中には数種類の毒性物質が入っています。さらに、一度刺されると釣り針のような返しが付いていて、なかなか抜けないようになっています。

幼虫は、毛虫です。体の色は、小さいうちはオレンジ色で、成長すると黒くなります。この毒針毛は、卵から孵って最初の脱皮後以降の幼虫が持っている、最初は数百本ですが、蛹になる前の幼虫では600万本以上になります。

幼虫は繭（まゆ）を作ってその中で脱皮して蛹になります。そして、羽化の際、雌のみが繭の中の毒針毛を腹の先に付着させて繭から外に出ます。雌成虫は卵を500個ほど固めて産み、このときに毒針毛を卵塊の上にこすりつけます。毒針毛は、鳥などの天敵から身

を守っていると考えられています。

本州以南では、夜間、灯火に集まってくる雌成虫による被害が多いのですが、北海道では幼虫による被害が圧倒的多数を占めています。

幼虫にさわって毒針毛が皮膚に付くと、最初はほんの少しむずがゆく感じます。この時は、毒針毛の大多数は皮膚に単に着いているのみと考えられています。そして、何気なく手のひらや衣服などで軽くなでるように搔いてしまうと、毒針毛が皮膚に刺さり、強いかゆみが現れます。すると指や爪で強く搔くようになるでしょう。逆さ針付き毒針毛は、どんどん深く刺さり、皮膚に赤い小さなところがあることに気づくはずですが、数時間後、この周りが腫れてきて、かゆさがさらに強くなります。多数の毒針毛が刺さった場合は、刺さった部分全体が広く赤く腫れ上がります。かゆみは1週間くらい続きます。

では、こんな日にあわないために、どのすればよいのでしょうか？ それには、第一にドクガの生態を知ることが大事です。

まだ続きがあります。後の号で書きます。

[横山 裕之] 沙流・千歳

◎トピックス

アイヌ語オンライン辞書やアイヌ語ローマ字カナ変換ウェブページを紹介します。

○トピック別 アイヌ語会話辞典

<https://db4.ninjal.ac.jp/ainutopic>

この底本は、金澤氏が作ったアイヌ語の辞典です。1895年から1897年にかけて、東京大学の大学院生だった金澤氏が、北海道でアイヌ語の調査をした後に、師である神保教授のアドバイスを加えて執筆しています。

○アイヌ語鶴川方言 日本語-アイヌ語辞典

<http://cas-chiba.net/Ainu-archives/mukawa/>

新井田氏と吉村氏は鶴川のアイヌの人たちです。映像作家の片山氏は、彼女たちからア

イヌ語を聞きました。そして、この辞典を作りました。

○日本語Ainu(Japan) 辞書オンライン

<https://glosbe.com/ja/ain/>

オンライン辞書の作成にご協力ください！

○アイヌ語ローマ字カナ変換ウェブページ

<http://aynuitak.at-ninja.jp/WEBhenkan/chiyu2-22.htm>

これでアイヌ語ローマ字文を、カタカナ文に変換できます。

[横山 裕之] 沙流・千歳

アイヌタイムズ 第65号日本語版(季刊)

発行所 アイヌ語ペンクラブ

〒055-0101 沙流郡平取町二風谷80-25

萱野 志朗 気付

発行責任者 野本 久栄

編集責任者 浜田 隆史

<http://www.geocities.jp/otaranay/taimuzu.html>

◆ アイヌタイムズ日本語版は、基本的には原稿執筆者の日本語原文をそのまま表しています。ただし、原稿検討の際、より適切な言葉に言い換えたり、文の順序を替えていたりすることもあるため、原文のままだと大きな支障がある所に限って、編集で直した部分もあります。 [編]